

アガペ No.48 総主事 堤 弘雄

こどもは誰のもの

こどもたちは誰のもの
 「あなたの子どもはあなたの子どもではない
 彼らは人生の希望そのものの息子であり娘である
 彼らはあなたを通じてくるがあなたからくるのではない
 彼らはあなたとともにいるがあなたには属しない
 あなたは彼らに愛情を与えてもいいがあなたの考えを与えてはならない
 なんとすれば彼らは彼ら自身の考えをもっているからである」

この詩はカーリール・ギブランというシリアの詩人が書いた有名な詩の一部です。この詩は、子どもを親の思いどおりに育ててはいけないということ、子どもは親の所有物ではないということ語っています。人間の命は神様から与えられた贈り物であり、それも単に偶然に命を与えられたのではなく神様の計り知れないご計画のもとに命を与えられています。そして、神様はすべての人間に期待をかけて、何らかの能力や役割を託された上で命を与えていると私は信じています。ですから、子どもたち一人ひとりが人格を持った尊い存在であるという前提で関わるのが大切だと思うのです。

私たちは、幼い子どもたちの心の中に育つ、硬い「種」に愛情という水を注ぎながら、認めること、褒めること、許すこと、伝えること、何よりも愛することによってやがて芽が出て、大きな木に育ち、実がなり、その実を人々に与え、やがて木陰に人を休ませるような存在へと子どもを育てたいものです。
 一人ひとりの子どもの中に神が宿っており、私たちはその神様に仕えている存在であることを覚えておいてほしいと思います。

熊本バンド結盟134周年を記念し
 講演会・早天祈祷会

明治時代、キリスト教の教えを全国に広めようと誓い、結成された「熊本バンド」の結盟134周年を記念し、講演会と早天祈祷会が開催されました。



「熊本バンドは、横浜バンド、札幌バンド、

幌バンドと並び日本プロテスタントの源流の一つと言われています。しかし、この3つのバンドは、成り立ちが異なり、キリスト教の捉え方も違います。

開港時に居留し始めた宣教師によって導かれた横浜バンドに対し、熊本と札幌はプロの牧師ではなく、明治政府や地域によって招聘された、お雇い外国人の感化を受けた青年たちによって発足しました。また、札幌農学校のクラークが生徒に対して「イエスを信ずる者の契約」に署名させたのに対し、熊本洋学校のジェーンズはキリスト教を教えることはありませんでした。生徒に請われて、ジェーンズは聖書を教えますが、西洋文明の根底にキリスト教の精神があることを生徒自らが理解していくのです。

その後、青年たちは『奉教趣意書』に誓約したことで迫害を受け、同志社英学校に入ります。新島襄の元でリベラルな教育を受け、いかに自らの賜物を用いて社会や国家、世界へと貢献することを考えます。今日の同志社大学にも受け継がれる志です。熊本でも、YMCAや教会、熊本大学YMCAとのネットワークが築かれ、熊本バンドの息吹が現在の私たちにも与えられていることを実感しました」。



前に35人の青年たちが誓約した「奉教趣意書」を熊本大学YMCA花陵会の中村恭浩さんが、同口語訳を九州学院高校の西洋平さんが朗読。同志社大学の原誠さんが「使命を与えられるー知ったもの責任」というテーマで奨励され、参加者からは大地震で被害を受けた八イチの復興へ向けた祈りも捧げられました。



多くの観客に見守られ体操演技
 ■開催日時/2010年2月14日(日) 8時45分〜16時
 ■開催場所/中央YMCA体育館
 第23回体操フェスティバルが開催され、体操教室の子どもたち約200名がマット、とび箱、鉄棒、トランポリンなどの演技を披露。元YMCA体操チーム生を含む東海大二高校・東海大学体操競技部4名によるデモンストラクションには、多くの歓声が上がっていました。会場では、体操チーム生のハイチ大地震支援募金の呼びかけに、およそ2万5千円もの募金が集まり、世界をみつめた大会となりました。



園児による歌や演奏の発表会

■開催日時/2010年2月20日(土) 13時半〜16時半
 ■開催場所/崇城大学市民ホール 大ホール
 YMCA水前寺幼稚園の発表会「春を待つよい子の集い」が行われました。大勢の前での発表で緊張しながらも、園児は練習してきた歌と合奏、遊戯や劇を十分に披露することができました。

